

のしろ児童館だより

小松市北浅井町1号21

TEL・FAX 22-6430

平成28年 4月号

じゃんけんの楽しさ・・・

児童館の学童（児童クラブ）で過ごす子ども達は、午後4時半を過ぎる頃になると、お迎えの保護者を待つようになります。そしてお迎えが来ると、一緒に帰っていくのです。・・・そんな光景の中で、時々、子どもと「ジャンケン」をして送り出すことがあります。

「ジャンケン」を始めたきっかけは、・・・

子ども達は朝学校に出かけてから、約10時間の間、家族と離れて学校と児童館で生活することになります。10時間近くも緊張した生活をすれば、どうしてもお迎えの時間頃にはストレスがたまります。またお迎えの時間は、職員が掃除をする関係上、子ども達には一つの部屋に集まってももらうことにもなっています。少し肉体的にも精神的にも疲れを感じている子ども達が、同じ場所に集まるとなると、特にそういう生活に慣れていない「一年生」を中心に「いさかい」が起こることにもなるのです。時間が十分にあれば、子ども達と話をして問題の解決もできるかもしれませんが、お迎えが同時にあるとするとそれもできません。

しかし、少しでも「楽しかった」という気持ちで帰ってほしいという職員の気持ちもあります。そこで考えたのが「ジャンケン」です。ジャンケンを何回かして、子どもが勝ったところで送り出しました。「最後に勝ったね。明日はいいことがあるかも。」そんな言葉をかけて送り出しました。

そんなジャンケンをしているうちに気づいたことがありました。・・・子ども（特に小さい子）は、自分が何を出すかを考えてはいるけれど、相手が何を出そうとしているかをあまり考えないということです。相手の心をあまり考えられないということです。勝ち負けだけではなく、相手の心を読む楽しさ（悔しさも含めて）も同時に味わうことができるのが「ジャンケン」です。それを伝えたいと思うようになりました。

ストレスがたまった時、低学年の子ども達は自分の感情を上手に言葉で相手に伝えることが苦手です。どうしても「手」が出てしまうことになります。当然、相手の気持ちを理解することも苦手です。そんな子ども達に「ジャンケン」を通して、相手の気持ちを理解することを伝えられるかもしれない？と思ったわけです。（もちろん「ジャンケン」だけでそんなことができる訳ではないことは分かっていますが・・・）

そこで考えたのが、「先生は〇〇（グー、パー、チョキのどれか）は出さないジャンケンをしよう」と言ってみました。すると子どもは相手が何をだすつもりだろうかを考えます。そしてそれに合わせた自分の「手」を考えます。（よく考えれば、決して負けない「手」があることが分かるのです）勢いでしたジャンケンではなく、考えて出したジャンケンで勝った方が、子ども達の喜びも大きいようです。

この後、ジャンケンゲームはさらにレベルを上げるのですが、何はともあれ、短い時間でも子どもと同じ時間を楽しむことが大切なのでしょう。児童館にも4月から新しい一年生の登場です。